



今村 桂子 議員

図書司書引き上げに伴う問題の 対策は 継続配置で改善を要請

問 今年四月からの中学校における図書司書削減のため、須恵中図書館では週三日の昼休みと放課後三十分のみの開館となり、図書の貸し出しは、全く行われていません。須恵東中学校では、なんと対応している状況です。

朝読書のとき、図書館で借りられないため、自分で本を準備しなければならぬ。本の紹介や図書便りの発行ができない。蔵書点検まで出来ないため、本を借りたい生徒に貸し出しが行えない。

答 等の問題が出てきています。来月四月からは、小学校においても図書司書の引き上げが決定されています。これらの問題点について、どのように考えているのか、また、対応策等



答 中嶋町長

認識の違いが二点あり、まず図書司書は引き上げていません。また、来年度小学校の図書司書を引き上げるなど決まったことでもありません。引き上げたのは町費事務職員で、この職員を集中管理するということが、子ども教育課に一名、もう一つの中学校の町費事務職員を別の課に異動したということですから、



須恵中学校図書室

図書司書は従来どおり、その機能は果たして当然のことです。それができていないということがおかしな話です。町費事務職員を学校に配置していない学校は幾つもあります。そのため、県費事務職員が県から派遣されています。その職員が町費事務職員の仕事をすれば当然できるということが、二月に協議され、三月にそのようにする方針を打ち出したわけです。

その後、先生たちの異動等で、決定したことが教職員全員に周知されなかったということが、その実態であろうと思えます。実施できていない部分については再度教育委員会から、一日も早く改善策を講じようという文書で連絡がされています。小学校の町費事務職員の引き上げについては今後検討して行きます。

医療費節減にジェネリック医薬品 (後発医薬品)の活用 普及させていく



森 勝己 議員



ジェネリック医薬品お願いカード

問 現在、日本の年間医療費は約三十五兆円、介護費十兆円、合わせて四十五兆円にもなり国家予算の半分以上であり、毎年一兆円以上増え続けております。日本の財政は大変なことになりそうです。我が町も言うに及ばず、医療費が毎年上がっている状態です。国保においては、財源不足一億五千万円を一般会計より繰り入れており、非常に厳しい現状です。医療費の抑制には、薬剤費の節約も十分効果があると思われれます。毎年、一般会計より補てんされていますが、更なる赤字が予測され、税率の改正も余儀なくされています。医療費を抑えるためジェネリック医薬品の活用を推進されてはどうでしょうか

答 ジェネリック医薬品を使えば、医療費あるいはその患者の費用負担が下がるのは、当然のことです。しかし、当然そのことがわかってはいるのに、なぜ国の指導が遅れているのかということが問題です。今、病院の調剤薬局等で「ジェネリック医薬品をお願いします。」と言っても、ほとんどは置いてありません。だから、二、三日待つて下さいというところがほとんどです。ただ私どもとしては、医師会の先生方、国・県の動向を見ながら、ぜひジェネリック医薬品を普及させていくということに進んでまいりたいと思えます。